



日野高校魅力向上推進協議会  
日野郡ふるさと教育推進協議会  
協働シンポジウム

## 「教育×地域」のみらい

～子どもも大人も輝く学校・地域をつくる～

開催レポート 2021.9.11(土)  
Symposium Report 13:00～16:30 @ Zoom

主催：日野高校魅力向上推進協議会・  
日野郡ふるさと教育推進協議会  
協働プロジェクトチーム



当日の様子（動画）

## 開催概要

日 時：2021年9月11日（土）13:00～16:30

場 所：オンライン（Zoom）

主 催：日野高校魅力向上推進協議会・  
日野郡ふるさと教育推進協議会  
協働プロジェクトチーム

参加人数：83名

## 目 次

### 開催概要・目次

#### 1P はじめに・開催にあたって

日野高校魅力向上推進協議会 会長 / 日野町長 塔田 淳一  
日野高校魅力向上推進協議会 アドバイザー /  
日野郡ふるさと教育推進協議会 アドバイザー /  
島根大学 教育学部 教授 作野 広和 氏

#### 2P 第1部 基調講演

講 師：大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎 氏  
テーマ：高校教育改革最前線～高校と地域の関係はどう変わるのか？～

#### 4P 第2部 高校生事例発表～地域と連携・協働した教育の取組～

・島根県立隠岐島前高等学校  
・広島県立大崎海星高等学校  
・鳥取県立日野高等学校  
コーディネーター：作野 広和 氏

#### 6P 第3部 ワークショップ

進 行：日野郡公設塾 まなびや縁側 講師  
テーマ：「教育×地域＝？」を考える

#### 10P 参加者の声

#### 11P 参加者アンケート

#### 12P おわりに

日野郡ふるさと教育推進協議会 会長 富田 美智子

#### 13P 協議会委員等

## はじめに

日野高校魅力向上推進協議会 会長  
日野町長

塔田 淳一

この度の協働シンポジウムの開催にあたり、県内外からたくさんのご参加をいただいたことにお礼申し上げます。ここ鳥取県日野郡（日南町・日野町・江府町）は、岡山県・広島県・島根県と県境を接する中国山地の真ん中に位置します。昨年、鳥取県立日野高等学校は開校20周年を迎えました。また、その前身となる日野産業高等学校・根雨高等学校の歴史を遡ると、100周年を迎えたところでございます。歴史と伝統ある高等学校が、少子高齢・過疎化の進むこの地域に立地し、生徒数の減少によりその存続までもが危ぶまれる状況が続いております。「日野高校を存続させたい」「魅力向上を図らなければ……」という地域の思いとともに、日野高校では地域課題の発見、解決型カリキュラムの深化など、様々な取組を進められています。

また、昨年からは、日野郡在住の高校生や日野高校生に日野郡のよさを伝え、将来日野郡を生まれ育った故郷、さらには第二の故郷としていただきたいと願い、地域に貢献できる人材教育の場の一つとして、日野郡公設塾「まなびや縁側」を開設したところでございます。高校・行政・地域が連携・協働していく取組や行動をより深め、地域づくりや将来を担う人材づくりに努めていきたいと考えております。

この協働シンポジウムは「『教育×地域』のみらい～子どもも大人も輝く学校・地域をつくる～」をテーマに開催いたしました。第1部で基調講演いただいた大正大学地域創生学部教授 浦崎太郎先生、第2部で実践発表いただいた島根県立隠岐島前高等学校・広島県立大崎海星高等学校・鳥取県立日野高等学校の生徒の皆さんに感謝の意を表すとともに、ご参集いただいた多くの皆さま方に重ねてお礼申し上げます。



## 開催にあたって

日野高校魅力向上推進協議会 アドバイザー  
日野郡ふるさと教育推進協議会 アドバイザー  
島根大学 教育学部 教授

作野 広和 氏

この度、協働シンポジウムをリモートで開催させていただきましたところ、全国各地から多数のご参加をいただき、ありがとうございました。

日野郡3町では、日野高校魅力向上推進協議会を組織し、日野高校を多角的に支援するとともに、高校と地域を結びつける活動を継続して参りました。この協議会には、日野高校と日野郡3町をはじめ、鳥取県教育委員会・鳥取県日野振興センター・島根大学が参画し、一丸となって取り組んで参りました。おかげさまで、日野高校への入学希望者は増加に転じ、地域との結びつきも一層強化されるなど、活動の成果を感じているところです。

また、日野郡3町によって日野郡ふるさと教育推進協議会を組織し、日野郡公設塾「まなびや縁側」を設置しています。ここには、日野高校に通学する生徒や、郡内に在住する高校生が通い、学力サポートを受けたり、課題解決型学習を主体的に取り組んだりしています。

本シンポジウムが掲げる「協働」とは、2つの協議会による「協働」を意味しています。

しかし、「協働」の範囲は、協議会の構成組織にとどまらず、地域住民や他地域の学校をはじめ、同様の環境で奮闘される全国各地の皆様など、無限に広がっていると考えます。本シンポジウムで得られた知見を全世界で共有し、未来における教育と地域のあり方について、さらに議論が深まることを期待します。



## 基調講演

# 高校教育改革 最前 ～高校と地域の



大正大学 地域創生学部 教授

1965年岐阜市生まれ。1989年3月広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了（理科教育学）。中央教育審議会学校地盤協働部会専門委員等を歴任後。2017年4月より大正大学地域情報研究室教授。2020年4月より群馬

○高校生の時に地域に  
関わって学んだ生徒は、  
その後どうなるのか？

まずは「高校生の時に地域に関わって学んだ生徒は、その後どうなるのか?」についてです。1つ目の事例は、現在大正大学2年生の平野さんについてです。三重県立飯南高等学校を卒業した彼女。課題研究のテーマは「なぜ空き家が多いのに空き家バンクの登録が少ないのか」。高校時代に地域で活動した彼女が今どうなっているかというと、大学に入学してからの学びへのフットワークが違うんですね。例えば、空き家問題の勉強会。参加費1万円にも関わらず彼女は参加しました。そして、大事なのは学業成績。入学時の点数は目を覆いたくなるほどでしたが、現在、彼女は学年トップ5に入っています。「自分のテーマはこれなんだ」という興味・関心が決まっていると、学び方が全く変わってくるということなんですね。

もう1つ事例紹介をします。北海道立藻岩高等学校です。この学校の「総合的な探究の時間（以下、総探）」は、「ど

こを目指して、何をするのか」が明確なんですね。【資料1参照】

例えば商店街の空き店舗で何かやらないかと誘われた女子生徒グループ。この子たちはお菓子作りが好きで、アップルパイを作ることにしました。その商店街を見はシャッター通りで、短大に通学する学生が何百人も素通りしている。彼女たちは「その通学者を巻き込むためには?」「アップルパイをツールにしてこのまちを食べ歩きのまちにできないだろうか?」と考えるわけです。ラジオで広報した甲斐もあり、用意した50個が21分で完売しました。この女子生徒は、プロジェクトの前はなんとなく進学先を決めていましたが、「この商店街に食べ歩きの文化を形成したい!」という思いからプロジェクトマネジメントを学べる大学を志望するようになりました。この子にとってはこれ(商店街を食べ歩きのまちに!)が進路なので、3年生では活動をより深めて、その成果を推薦入試で発揮していくんです。推薦入試で合格した後も、彼女は調理師の勉強を始めました。だって彼女は食べ歩きの文化を作りたいんだから。先ほどの平野さんもそうなのですが、「自分のテーマはこれなんだ」と心から思えるものが見つかると、これくらいのパワーを発揮するんです。



#### 資料1：藻岩高校「総合的な探究の時間」全体計画

綠

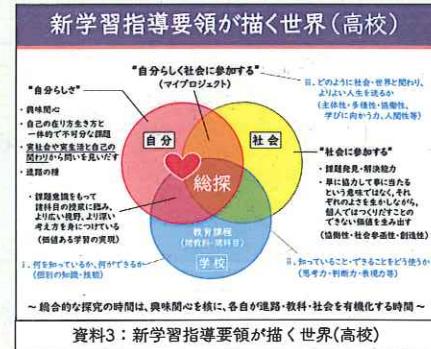
関係はどう変わるのか？～

## ○新学習指導要領・総探が

## 何を目指しているのか

地域で学んだ高校生の事例でイメージを共有したところで、「今、国は何を進めようとしているのか」「新学習指導要領は何を目指しているのか」についてお話しします。解説の総探編をもとに説明していきます。新学習指導要領に頻出する表現である「自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題」。これはすなわち「マイテーマ」のことなんですね。このマイテーマが明確な生徒は放っておいても勝手に学ぶんです。ただマイテーマに取り組むだけでは自己満足なので、そこに社会的価値を掛け合わせる。これがマイプロジェクトです。しかし学校の授業の大半である教科学習につながらないと、学校として実施する価値はないんです。自分らしさ・社会に参加する価値創造・教科との接続。この3つを横断するものが総探。総探はただプロジェクトを実施するだけの時間ではないんですね。自分の興味・関心を軸にして、進路・社会・学問をつないでいく。それが本来の総探なのです。

この本来の総探にならず、従来の総合的な学習の時間のままの高校もまだまだ多いのが現状です。今求められているのは一律的な課題に取り組むのではなく、個別最適化された学びなのです。



### 資料3：新学習指導要領が描く世界(高校)

○高校魅力化と教育改革

さて、高校魅力化も始まって既に10年近く経ちました。当時は「高校をなんとかしなければ地域の未来はない」「地域課題を発見・解決させよう」ということで始まりました。表層的な魅力化には、マイテーマで探究できる生徒が一部に限定され、多くの生徒は「やらされ探究」に陥ってしまうんですね。そして教科との結びつきも薄い。そんな状態で地域の担い手が育つはずがないんです。これが過去の魅力化の限界でした。しかし、新教育課程では、マイプロジェクトに取り組み、自分らしく挑戦している若者がたくさん出てくる。その結果が地域の持続可能性向上なんです。第2部で事例発表をする島根県立隠岐島前高等学校は、今もなお進化を続けている魅力化の先駆け校です。進化を続け、アップデートし続ける魅力化が、本来の形です。

そして、それを踏まえた上で、今必要  
なのが高校教育改革。内容や方法をどう  
変えるかではありません。大事なのは見  
方・考え方、生徒観・社会観・教育観と  
いった世界観。本気で新教育課程に取り  
組み、本気で生徒を育てようと思ってい  
るのであれば、内容・方法の小手先では  
なく、世界観のアップデートが必要なん  
です。  
<当日講演内容より>

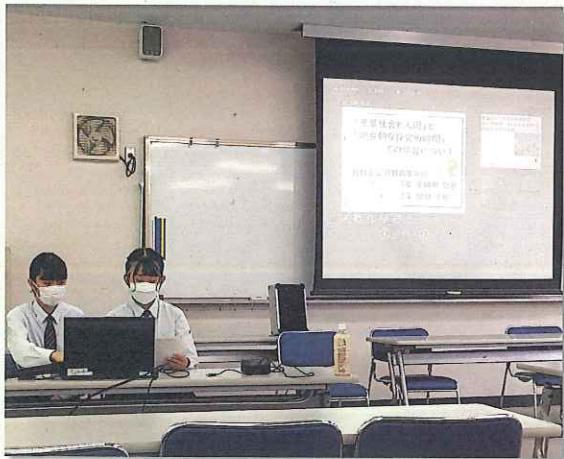
## 総学的な高校 vs 総探的な高校

大人が与える課題 (学校内・外的)	探究の起点 課題の個別最適性	生徒の心間・気づき (学校内外・内向的)
軽視(やらされ学習化) 低い(教師の割合を優先)	マイ・プロジェクト化 活動単位	重視(丁寧に指導) 高い(本人の意思を尊重)
グループ単位が基本 低儀(愛動的)	学びの自走性	個人で動くのは普通 向上・充実(主体的)
授業時間内・校内だけ 生徒を校に引きつけるために手放せない装置	探究する機会 部活動の位置づけ 受験科目等への影響	放課後・休日も地城等で 探究の実習・授業とともに必要性は相対的に低下 探究的・有機的に学ぶ
結果的に圧迫 研究と進路指導で二重負担 低い(教師は疲労困憊)	進路決定との有機性 働き方改革の実現性	探究・組合型連携で合板 高い(教師は笑顔)

## 資料2：総学的な高校と総探的な高校の比較

## 高校生事例発表

## 地域と連携・



### 鳥取県立日野高等学校 「産業社会と人間」と 「総合的な探究の時間」での学習について

鳥取県立日野高等学校は、全校生徒97名の総合学科の高校です。2年次から総合進学系列・アグリライフ系列・情報ビジネス系列・ヒューマンケア系列の4系列に分かれます。その日野高校の「総合的な探究の時間」について、1年次から3年次まで時系列に沿って説明します。

まず初めに、1年次の「産業社会と人間」では、地域調べやフィールドワークに取り組みます。メモの取り方・話の聴き方・情報のまとめ方を学んだ上で地域に出ました。活動を通じて、日野郡のことを知ることができました。

次に、2年次の「総合探究」についてです。3年次の課題研究の目標である「地域を元気に」につながる「日野郡の活性化」が目標です。「総合探究」では、12のチームに分かれて探究活動を行いました。私たちは福祉予算について調べました。各町の支出の違いや町独自の取組はあるものの、いずれも「高齢者の方が元気で長生き」を目指していることがわかりました。

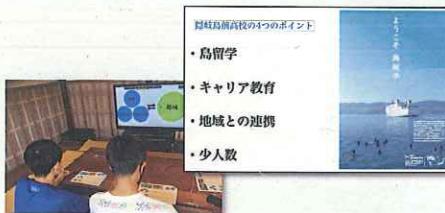
最後に、3年次の「課題研究」についてです。「地域を元気に」を目標に、10チームで探究活動を進めています。また、それぞれのチームに地域の方が「地域サポーター」として入っています。地域サポーターの方がいることで、先生・高校生だけでなく、地域の人と一緒に地域を元気にすることができます。私たちは、2年次の活動をもとに「eスポーツで地域の高齢者を元気に」と「3町3色パンの商品開発」に取り組んでいます。

日野高校の「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」では、1年次に「調べる」、2年次に「深める」、3年次に「究める」というイメージで、進級するごとに学びが積み重なることを目指しています。日野高校の「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」は、一貫して地域の方に支えられ、あたたかく見守ってもらしながら進んでいます。また、生徒数も少ないとから、先生との距離も近く、安心感の中で成長することができます。

<当日発表内容より>



## 協働した教育の取組



### 島根県立隠岐島前高等学校 「地域全部が学びの場」

島根県立隠岐島前高等学校は、島根県海士町に位置する高校です。この学校を語る上で外せないポイントが島留学・キャリア教育・地域との連携・少人数です。今回はキャリア教育と地域との連携について説明します。

まずは学校の総合的な探究の時間である「夢探究」についてです。「夢探究」では、地域の課題解決や魅力創出をテーマにしたグループワーク・ゲストトーク・フィールドワークなどの活動を行っています。

次に、僕たちの個人活動についてです。

現在、島前3町村（西ノ島町・海士町・知夫村）の方に生き方やこれからの島前地域の在り方についてインタビューをして、雑誌形式にまとめています。また、「ローカル探究」という夏休みプログラムでは、地域の事業所で働き、「ローカル」の価値を体験、理想と現実の違いを知ることができました。

上記の活動は「夢探究とつながっている」ということに気付きました。インタビューで必要な質問力は「夢探究」で身につけたもの。「ローカル探究」で実際に地域の人が抱えている課題を知ることで、その課題を夢探究で深めていく。学びはつながっていました。しかし、学びは自分たちの中だけでつながっているわけではなく、地域に開かれた学びとして自分と地域が成長していく。その結果自分たちのなりたい姿を実現することにつながっているんだと思います。

<当日発表内容より>

つのグループに分かれて活動を進めました。3年次「航界学」では自ら地域課題を見つけて、1年を通して解決していくという学習です。

次に公営塾「神峰学舎」についてです。学校との密な連携や、マイプロジェクトの伴走など様々な面でサポートしてくれています。また、神峰学舎では、「夢☆ラボ」という、授業では学べないことを学ぶ・自分の可能性を見つけるためのプログラムがあります。私はこの夢☆ラボで、島で結婚式を挙げたいという新郎新婦と半年間打ち合わせを行い、実際に結婚式を挙げることができました。

そのほかに、大崎海星高校には、海星魅力化プロジェクト推進部「みりょくゆうびん局」があります。みりょくゆうびん局では、手紙や荷物を全国に届けるように、県外生募集などで中学生に「みりょく」をPRしたり、商品開発や島内でのイベントを通じて「みりょく」を発信したりなど活動しています。

大崎海星高校は、地域とのつながりが強く、自分のしたいことを応援してくれる人が多くいる学校です。

<当日発表内容より>



### 広島県立大崎海星高等学校 「大崎海星高校のみりょく」

瀬戸内海に位置する大崎上島町にある広島県立大崎海星高等学校では、「大崎上島学」として、地域を題材とした課題発見型の学習を行っています。1年次「羅針盤学」では「自分自身を見つめ、自分自身の生き方・在り方を知る授業」として、自分の好きなものや価値観を知ります。また、地域に出たり、地域の方が学校に講座にきてくださったり様々な活動をしました。2年次「潮目学」では「与えられた地域課題を解決する」がテーマです。1学期は、地域に出て課題を見つけ、改善策を出すという練習を行い、2学期では4

## ワークショップ

## 「教育 × 地域

グループに分かれて、本シンポジウムのテーマであるここでは、各グループの「教育×地域=？」の答えと

### グループ A



1. 地域課題解決・地域魅力発信
2. 多様性の享受
3. 子どもも大人も成長・元気！

これまでの「教育×地域」は、どちらか一方がお願いをしてどちらか一方がそれに応える、というものが多く見られたと思います。しかし、改めて重要なことは「教育」も「地域」もWin-Winの関係であること。地域側に寄ってしまってはマイテーマが見つからず「やらされ探究」になってしまふ。かといって教育側に寄ってしまっては社会性や価値創造の側面が弱くなってしまう。お互いがお互いに何を求めていくのかを理解し合うことが大切だと思います。その結果、生徒はスキルが身につき、地域の魅力は向上していくといった、双方向への作用が生まれると思います。また、そのWin-Winの関係を実現するためには、子どもの多様性・大人の多様性・地域の多様性を双方向で理解し合うこと。さらに「教育×地域」を実践していく中で、子どもも大人もお互いに成長し合うことができ、地域全体で学び合う土壤ができるいくのではないかと思う。

### グループ B



### リアルなトライアル

このグループでは、最初に「教育×地域=？」の答えを話し合い、「リアルなトライアル」という言葉にまとまりました。そして、その「リアルなトライアル」を実践するために、「教育・地域はそれぞれ何ができるのだろう?」という話になりました。教育は、生徒に基礎的な知識やスキルを提供する。地域は生徒がその知識やスキルを活かす・実践する・トライする場所を用意する。このような関係が望ましいのではないかでしょうか。高校生の段階から実践・トライする経験をすることで、生徒の生き方・マイテーマが見つかり、生徒の可能性が広がる。そして、結果的に地域も人づくりの土壤が醸成されるのではないかと思います。



## = ?」を考える

「教育×地域」について考えました。  
話し合われた内容について紹介します。



### グループ C

子どもが主役、子どもの未来……  
子どもたちが自分でやってできる、  
変えることができるという体験ができる未来



このグループでは、地域の中で子どもを主語に置き、どうやったら子どもの可能性を広げられるのかについて話し合いました。地域という場では、生徒は自分の活動で周りの大・地域を動かし、変えることができる。その体験をすることで様々な気づきや学びを得ることができます。「教育×地域」では、そういった未来を創っていくけるといいのではないかと思います。

### グループ D

地域の未来に向かって魅力化を促進する、相乗効果を生み出す



「将来、この地域に戻ってきてほしい。関わっていきたい。」  
生徒たちにそう思ってもらうためには、地域との関わりが必要。「教育×地域」の実践がされることで、お互いに相乗効果が生まれる、という話し合いがされました。

### グループ E

地域の大人も学校教育に関わり、  
内部から変えていく



「生徒として日野高校に入学したい。」参加した大人から、  
そのような意見が出ました。ただ地域の大人として関わる  
のではなく、学校教育の内部から変えていく。今話題のリカレント教育の視点も重なり、非常に議論が盛り上がりま  
した。

## ワークショップ

# 「教育 × 地域

### グループF

#### 学校教育で蒔いた種を、地域で咲かせる



「学校教育でできることや地域でできることはそれぞれ異なっている」という前提から、「ではそれできることとはなにか?」という話になりました。学校では教科の学習をきちんとする。そうすると、探究の切れ味が変わってくる。そして地域は、「地域『を』学んでもらう」のではなく、「地域『で』学んでもらう」という、あくまでも地域は実践の場であることが重要だと思います。もちろんそれを実現するためには、学校と地域がお互いどんな未来を描いているのかを対話し、共通のビジョンを見ていく。そして、学校と地域それがどんなことに価値を感じているのかを理解し合う必要があるという話になりました。



### グループG

#### 答えが明確に出るものではない

教育と地域をそれぞれの立場から考えました。教育は生徒のために、地域の中でマイテーマを発見してもらうきっかけを提供する。地域は生徒が地元に残って欲しい思いはあっても変容していく必要がある。お互いの考え方方に相違はあるかもしれないが、タブーを作らず、向き合って議論を重ねることが大切なのではないでしょうか。



### グループH

#### 大人も子どもも自分らしく学ぶ

このグループでは、「大人が子どもに教える」だけなく、「共学共創」という考え方が重要だという話になりました。そして、その共学共創の場になるのが地域という舞台。地域の大人も大人の世界だけに留まらず、子どもからも学ぶ。フラットな関係を築くことが非常に大切だと思います。



## = ?」を考える



### グループI

1. 対話を通じて地域も生徒も新しい視点を得られる
2. 将来に生きる学びができる
3. 関係人口の増加、高校生が地域にでる=活気が出る

このグループでは、「教育・地域の両者のよさがうまく噛み合うことが重要」という話になりました。子どもたちの成長のフィールドが地域であり、地域・子どもの視点は、両者にとっても新しい気づき・学びにつながると思います。子どもたちは地域での学びを通じて「自分がどう生きたいか・在りたいか」を考えられるようになります。地域にとっては子どもたちが地域で活動することで活気が出てくるという好循環が生まれるのではないでしょうか。

### グループJ

#### 地域と教育が結びつくことによって子どもたちの可能性が広がり、地域の発展・豊かな人生につながる

子どもたちが「地域」という人材や資源に溢れているフィールドに出て地域の大人と協働することで、子どもたちの「自分の学びたいこと」、つまり「マイテーマ」が見つかるという話になりました。そして、地域と教育が結びつくことによって子どもたちの可能性が広がり、地域の発展や子どもたちの豊かな人生につながると思います。

### グループK

#### 地域を含めて学び続けること。地域は学びの宝庫

このグループでは、「教育×地域」において、「地域で学び続けること」が重要だという話になりました。この学びは決して生徒たちだけでなく、生徒たちと関わる地域住民の学びにもつながる、そして地域は学びであふれている。つまり、地域は学びの宝庫であるというのが結論です。地域に出かけ、学び続けることで、学校の授業では得られない経験や体験をすることができ、その経験が卒業後の社会生活にも活かされていくのではないでしょうか。

### グループL

#### 生徒には学びを、地域には活気を

「教育と地域は切り離せないもの」という話から、では「両者にとって連携・協働するメリットは何か」について話し合いました。生徒は地域に出て学び、探究活動することで、学校では得られない学びを得ることができる。地域は生徒が地域で活動することで活気が生まれるという話になりました。

## 参加者の声

私は、「教育×地域」に関心を持って過ごしており、特に高校魅力化の実例について知りたいと思っていたため参加しました。今回、私は特に2つの言葉が印象的でした。1つ目は「人のための郷土」、2つ目は「対話の重要性」です。「人のための郷土」では、物事を自分軸で捉えることにより、自分らしく地域に参加できるという循環が地域にも良い影響を与えると感じました。よく、「地域のために」という言葉を新成人のインタビュー等で聞くことがあります。そこでもし「私は～ができる。その余白がこの地域にあるから戻ってみたい。」という思考に変化した場合、どう地域は変容を遂げるのだろうかと考えを深めました。「対話の重要性」では、特に地方において多世代間での対話を通して、自分軸に+αの価値づけができると考えました。このことは、「人のための郷土」であるために、必要不可欠だと感じています。以上から今後は、「教育×地域」に自分軸を付けて大学での学びを励みたいと考えています。



鳥取大学 学生  
河合 真希さん



広島県立吉田高等学校 教員  
小澤 圭介さん

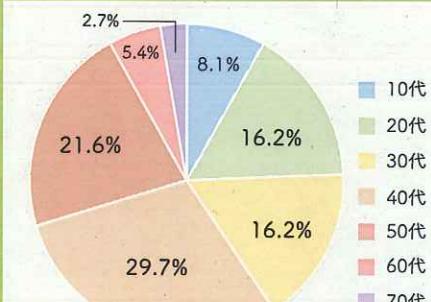
私は、広島県立吉田高等学校で教員をしております。本校は文部科学省より「地域との協働による推進事業」の事業特例校として指定を受けており、地域と一緒に協働学習カリキュラムを研究しているところです。今回のシンポジウムのテーマであった「子どもも大人も輝く学校・地域」とは何か。教師としても、広島県安芸高田市民としても考えてみたいと思っています。最後のワークショップで「教育×地域」を自分なりに考え、今強く思うのは、「まずは学校と地域それぞれが目指す目標を明確にすることが大切だ」ということです。「一枚岩」は、一見頑丈そうですが、実はもろい。最初から一つになるのではなく、まずそれぞれの想いをぶつけ合うこと。そしてそこに「タブー」をつくらないこと。まずはそこから始めてみようと思いました。立場の違う方々と議論出来たからこそ、頭に浮かんだ発想だと思います。本当にありがとうございました。



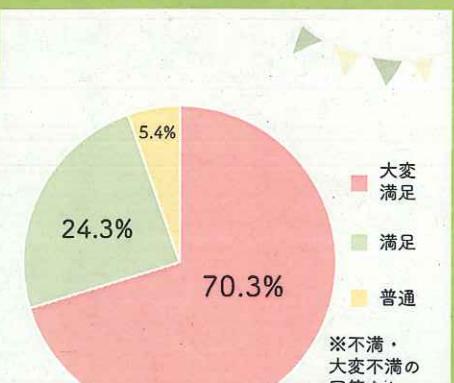
パナソニック株式会社  
西川 良謙さん

今回、ご講演と実際の取組事例に興味があり参加させていただきました。浦崎教授のご講演から「探究型学習」の新旧対比や細分化しての特徴・実例で得られた効果は非常に参考になりました。企業でもお客様の満足・価値向上に向けて活動させていただく中で「自分事」として提案・検討・実現した商品やサービスには魂が宿り、より共感いただける様にも感じています。そこに住む子どもたちによって実現されるイノベーションが継続されることによって、地域にどの様な特色をもたらすのか、「行動すること」を学んだ子どもたちが次に何に疑問を抱きチャレンジしていくのか・失敗した時に痛感するであろう責任感にどの様に向き合うのか・それを地域はどの様にサポートするのかなど、今後のいろいろな出来事にワクワク感を覚えた「『教育×地域』のみらい」に参加させていただき、誠にありがとうございました。

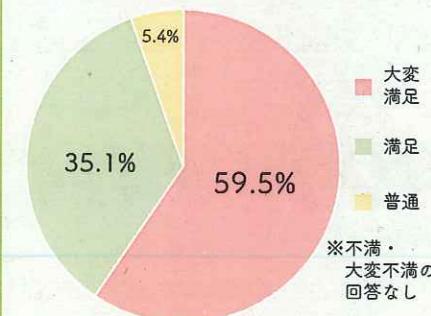
## 参加者アンケート



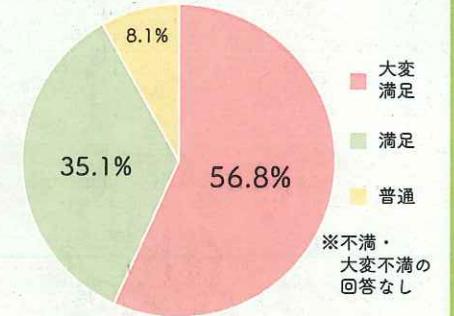
参加者の年代



第1部：基調講演の満足度（5段階）



第2部：高校生事例発表の満足度（5段階）



第3部：ワークショップの満足度（5段階）

### 満足度の理由

- ・高校の探究活動を受け入れる地域のあり方への課題を指摘していただき、納得しました。テーマ設定が良く、これまでの学習と探究がどう違うのか比較しながら解説していただき、わかりやすかったです。（鳥取県：60代）
- ・生徒さんの言葉で、学んだこと・気づいたことを聞くことができ、楽しくて学んでいる様子が伝わってきました。（30代：島根県）
- ・自分はまさに、進学校で、偏差値を上げる事だけ取り組んできた。自分が高校生の頃にこんな経験したかったなと思いつつ、人間的にはまだ若者だと思えば色々挑戦できるのかなと元気をもらった！（20代：鳥取県）
- ・今まで考えたことのないことが自分の中からだけでは生まれないような考えがあり、自分の考え方の幅も広かったと思う。（10代：広島県）

## おわりに

日野郡ふるさと教育推進協議会 会長

富田 美智子

本シンポジウムを通じて、様々なことを考え、気付き、学ばせていただきました。余談ではありますが、シンポジウム当日の午前中、地域の小学校の運動会に出席しました。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、1家族3名という限られた入場制限の中、精一杯頑張る子どもたちの姿を見て、たくさんの元気をいただきました。そして、本シンポジウムもまた、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。私自身、オンラインは慣れていないのですが、私と同じ日野郡ふるさと教育推進協議会の事務局から教えてもらしながら参加しておりました。様々な変化が伴う昨今、大人も学び続ける必要があると再認識しました。

以前、この日野郡の高校生と話す機会がありました。その際、その高校生から「私が一番望むことは、素敵な大人と出逢うことです」という意見がありました。自分はどうだろう、「素敵なおとなになっているだろうか」と考えるようになりました。地域の大人が、高校生の言う「素敵なおとな」になること、これはとても重要なことだと思います。そして、第2部で事例発表いただいた高校生の皆様はすでに自分で考え方歩き出していますが、本来、子どもが自分で考え方歩き出すということは、子ども一人では非常に難しいことです。地域の大人たちが子どもたちの力になる。そういった中で初めて子どもたちが地域に向けるようになる、地域に貢献したいという考えを持つようになるのではないかと思うか。

改めて、お忙しい中、本シンポジウムにご参加いただき、本当にありがとうございました。



## 当日の写真



## 協議会委員等

### 日野高校魅力向上推進協議会

#### 【委員】

会長	塔田 淳一	日野町長
副会長	中村 英明	日南町長
副会長	白石 祐治	江府町長
監事	青戸 品彦	日南町教育委員会 教育長
監事	富田 司	江府町教育委員会 教育長
頭本 元文	日野町教育委員会 教育長職務代行者	
坪倉 寿樹	鳥取県立日野高等学校 校長	
福田 一哉	日南町商工会 会長	
今倉 憲吾	社会福祉法人日翔会 施設長	
祇園 崇広	社会福祉法人尚仁福祉会 理事長	
西村 和宏	鳥取県立日野高等学校 PTA会長	
酒井 信彦	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 課長	
柄本 義博	鳥取県西部総合事務所 日野振興センター 所長	

#### 【アドバイザー】

作野 広和	島根大学 教育学部 教授
-------	--------------

#### 【ワーキンググループ】

今村 恒介	鳥取県立日野高等学校 教頭
実延 太郎	日南町企画課 課長
荒木 憲男	日野町企画政策課 課長
竹茂 良平	江府町総務課 参事
段塚 直哉	日南町教育委員会事務局 教育課 課長
砂流 誠吾	日野町教育委員会事務局 教育課 課長
加藤 邦樹	江府町教育委員会事務局 教育課 課長
福本 哲也	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 高校教育企画室 室長
野間 植治	鳥取県西部総合事務所 日野振興センター 日野振興局 参事
長谷川 大介	日野町教育委員会事務局 教育課 / 日野高校魅力向上コーディネーター

#### 【事務局】

砂流 誠吾	日野町教育委員会事務局 教育課 課長
長谷部 崇樹	日野町教育委員会事務局 教育課 主幹兼指導主事
長谷川 大介	日野町教育委員会事務局 教育課 / 日野高校魅力向上コーディネーター

### 日野郡ふるさと教育推進協議会

#### 【委員】

会長	富田 美智子	江府町教育委員会
副会長	吹野 玉枝	日南町立日南中学校 校長
監事	砂流 誠吾	日野町教育委員会事務局 教育課 課長
	井上 裕吉	特定非営利法人こうふのたより 副理事長
竹内 貴美	江府町立江府中学校 校長	
安達 才智	日野町立日野中学校 校長	
古川 貞美	日南町 社会教育委員	
足立 福子	日南町 社会教育委員	
宮永 二郎	鳥取県西部総合事務所 日野振興センター 局長	
市村 曜典	鳥取県立日野高等学校 教頭	

#### 【アドバイザー】

作野 広和	島根大学 教育学部 教授
-------	--------------

#### 【事務局】

加藤 泰	江府町教育委員会事務局 教育課 課長
藤原 崇樹	江府町教育委員会事務局 教育課 主事
長谷部 崇樹	日野町教育委員会事務局 教育課 主幹兼指導主事
伊田 達彦	日野町企画政策課 副主幹
福田 範子	日南町教育委員会事務局 教育課 社会教室室 室長
三上 恵子	日南町教育委員会事務局 教育課 幼児・学校教育専門監
佐々木 俊宙	日南町教育委員会 / 日野郡公設塾まなびや縁側 講師
中谷 栄哉	日野町教育委員会 / 日野郡公設塾まなびや縁側 講師
阿部 将樹	江府町教育委員会 / 日野郡公設塾まなびや縁側 講師 (デザイン・編集)

